

氏名	生 口 俊 浩
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2601号
学位授与の日付	平成15年9月30日
学位授与の要件	医学研究科内科系放射線医学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Comparison of Tc-99m-GSA scintigraphy with hepatic fibrosis and regeneration in patients with hepatectomy (肝切除患者における肝線維化、再生とTc-99m-GSAシンチグラフィの相関)
論文審査委員	教授 田中 紀章 教授 白鳥 康史 教授 小出 典男

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肝切除術を施行した 53 例に対し Tc-99m-GSA シンチグラフィの定量指標である HH15、LHL15、LU15 と肝線維化、残肝再生との関係を検討した。切除組織の非腫瘍部を新犬山分類に基づき肝の線維化の程度により F0：線維化なし、F1：門脈域の線維性拡大、F2：線維性架橋形成、F3：小葉のひずみを伴う線維性架橋形成、F4：肝硬変に分類し、F0-F1 群、F2-F4 群に分類した。いずれの定量指標においても 2 群間に有意差を認めた。ROC カーブを用いた検討では HH15=0.52 をカットオフ値とした場合、これら 2 群を最も正確に分類することができ、感度 79.3%、特異度 75.0%、正診率 77.4%であった。その場合、術後 1 ヶ月に腹部 CT を施行した 18 例において、HH15 \leq 0.52 群の方が有意に残肝再生率が大きかった。

Tc-99m-GSA の定量因子である HH15、LHL15、LU15 は肝線維化の程度と良い相関があり、加えて HH15 $>$ 0.52 群では術後充分な残肝再生が得られない可能性があることが示唆され、慎重な切除計画が必要と思われた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は肝切除術を施行した 53 例に対し Tc-99m-GSA シンチグラフィの定量指標である HH15、LHL15、LU15 と肝線維化、残肝再生との関係を検討したものである。

Tc-99m-GSA の定量因子である HH15、LHL15、LU15 は肝線維化の程度と良い相関があり、加えて HH15 $>$ 0.52 群では術後の肝再生が不良であることが示唆され、本研究は外科臨床において価値ある業績で認められた。

よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。